

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-90172

⑤ Int.Cl.⁴

B 65 D 83/06

識別記号

庁内整理番号

6564-3E

④ 公開 昭和60年(1985)6月20日

審査請求 未請求 (全2頁)

⑥ 考案の名称 液定量分配供給用容器

② 実 願 昭58-183429

② 出 願 昭58(1983)11月28日

⑦ 考 案 者 多 田 宏 調布市深大寺町1542番地

⑧ 出 願 人 キヤニヨン通商株式会社 東京都千代田区猿楽町1丁目2番1号

⑨ 代 理 人 弁理士 浅 賀 一 夫 外1名

⑩ 実用新案登録請求の範囲

キャップを備えたある程度の撓曲性を有する容器本体の上部片側に寄せて他のキャップを備えた独立した計量室を一体に設け、該計量室上側部と上記本体底側部とを細い流通路により連通せしめてなることを特徴とする液定量分配供給用容器。

図面の簡単な説明

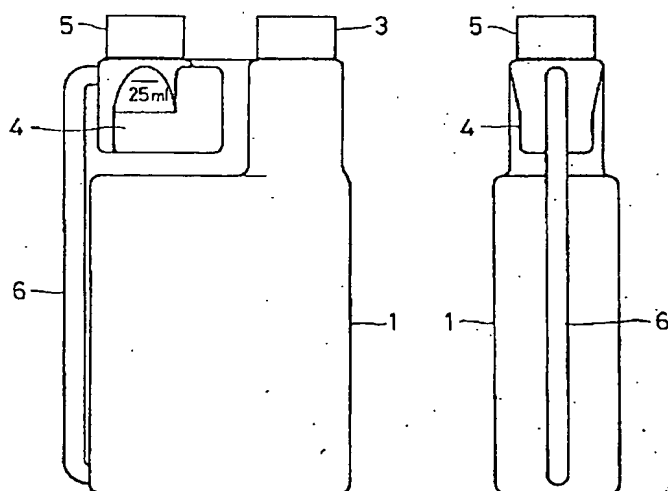
第1図は本考案に係る液定量分配供給用容器の

正面図、第2図は同側面図、第3図は同平面図、第4図は同縦断面図である。

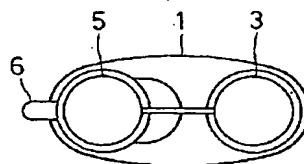
符号説明、1…容器本体、2…液注入口、3…キャップ、4…計量室、5…キャップ、6…流通路。

第1図

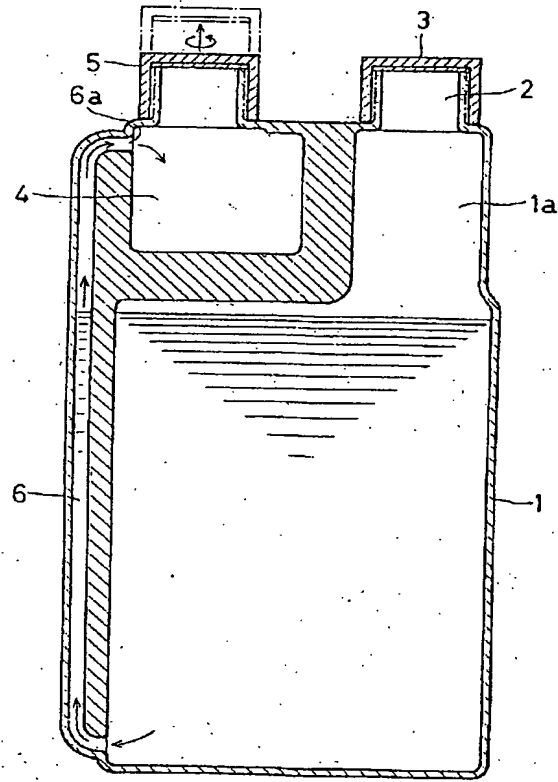
第2図



第3図



第 4 図



公開実用 昭和60— 90172

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-90172

⑬ Int.Cl.*

B 65 D 83/06

識別記号

庁内整理番号

6564-3E

⑭ 公開 昭和60年(1985)6月20日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 液定量分配供給用容器

⑯ 実 願 昭58-183429

⑰ 出 願 昭58(1983)11月28日

⑱ 考 案 者 多 田 宏 調布市深大寺町1542番地

⑲ 出 願 人 キヤニヨン通商株式会 東京都千代田区猿染町1丁目2番1号
社

⑳ 代 理 人 弁理士 浅賀 一夫 外1名

明 細 書

1. 考案の名称

液定量分配供給用容器

2. 実用新案登録請求の範囲

キャップを備えたある程度の撓曲性を有する容器本体の上部片側に寄せて他のキャップを備えた独立した計量室を一体に設け、該計量室上側部と上記本体底側部とを細い流通路により連通せしめてなることを特徴とする液定量分配供給用容器。

3. 考案の詳細な説明

本考案は容器内に収容された液を簡単な操作で常に正確に一定量取出すことができる液定量分配供給用容器に関するものである。

従来、液体肥料や農薬その他各種の試薬等の液を容器から一定量取出したいときには、通常該液をメジャーカップに移しながらその注入量を目視する方法が行なわれている。しかし、これでは甚だ面倒で、ときに取出量が少な過ぎたり大過ぎてもとの容器に戻さなければならないなど必ずしも正確に取出すことができないばかりか、特に希釈

すべき有害な濃厚液を定量使用するためメジャーカップに移し替える際、該液が手指に付着して人体に害を及ぼす場合もあるなど種々の問題があった。

本考案は上記のような従来の欠点を解消し、極めて簡単な構成により容器内の液を一定量取出すことができるようにした液定量分配供給用容器を提供するものである。

即ち、本考案はキャップを備えたある程度の撓曲性を有する容器本体の上部片側に寄せて他のキャップを備えた独立した計量室を一体に設け、該計量室上側部と上記本体底側部とを細い流通路により連通せしめてなることを特徴とする液定量分配供給用容器に関するものである。

以下、本考案の実施例を添付図面を参照して説明する。

1 はある程度の撓曲性を有する透明ないし半透明の合成樹脂製の容器本体で、その胴部を片手でつかむことができるような形状及び大きさとしてあり、該本体 1 上部のキャップ 3 を備えた液注入

口 2 及びこれに続く本体 1 の液取入部 1 a は片側に寄せ、これと反対側の本体 1 上部には該取入部 1 a と対向するようにして上部に他のキャップ 5 を備えた独立した計量室 4 が設けられている。

この計量室 4 は上記のように本体 1 の液注入口 2 と反対側に寄せて該本体 1 上部に一体に配設されており、計量室 4 上部側方と容器本体 1 の該計量室 4 側底部側方とは細い流通路 6 により接続され、これにより計量室 4 と本体 1 とを連通せしめてある。

しかして、容器本体 1 内に収容された液を定量供給する場合には、あらかじめ本体 1 のキャップ 3 を固く締めおき、まず計量室 4 のキャップ 5 を少しくゆるめて計量室 4 内の空気が外部へ逃げ出し可能にしてから、次に本体 1 の胴部を指で押圧すると、本体 1 内の液は底部より流通路 6 を上昇して行って計量室 4 内に流れ込む。

そして計量室 4 内に流れ込んだ液が流通路 6 の計量室 4 への流入口 6 a より上位に達したことを確認したら、本体 1 への上記押圧操作を直ちに解

除すれば、計量室 4 内の流入口 6 a より上位の液は流通路 6 へオーバーフローして降下して行き、計量室 4 内には常に一定量の液が残存することになる。そこで、計量室 4 のキャップ 5 を外し容器本体 1 を押圧することなく傾けて計量室 4 内の液を排出させるのである。

なお、計量室 4 内の上記定量液を傾転排出させる際には、容器本体 1 内は該排出液の体積分だけ減圧されていることになるから、本体 1 内の液までが外部へこぼれ出す心配はなく、定量液の供給が保証される。

本考案は以上のように構成され、計量室 4 内の液流入口 6 a より下側の容積を任意に設定形成しておけば、上記のような極めて簡単な操作により手を汚すことなく常に正確に該容積分の液を容器本体内から外部へ分配供給することができるのである。

また、本考案によれば前記 2 個のキャップ 3, 5 以外の各部は一体成型により容易に形成することができるから、製作が容易で製作費も安価であ

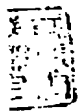
り、全体の形状も意匠的に良好である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る液定量分配供給用容器の正面図、第2図は同側面図、第3図は同平面図、第4図は同縦断面図である。

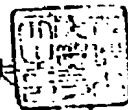
符号説明

1 - 容器本体 2 - 液注入口 3 - キャップ
4 - 計量室 5 - キャップ 6 - 流通路



実用新案登録出願人 キャニオン通商株式会社

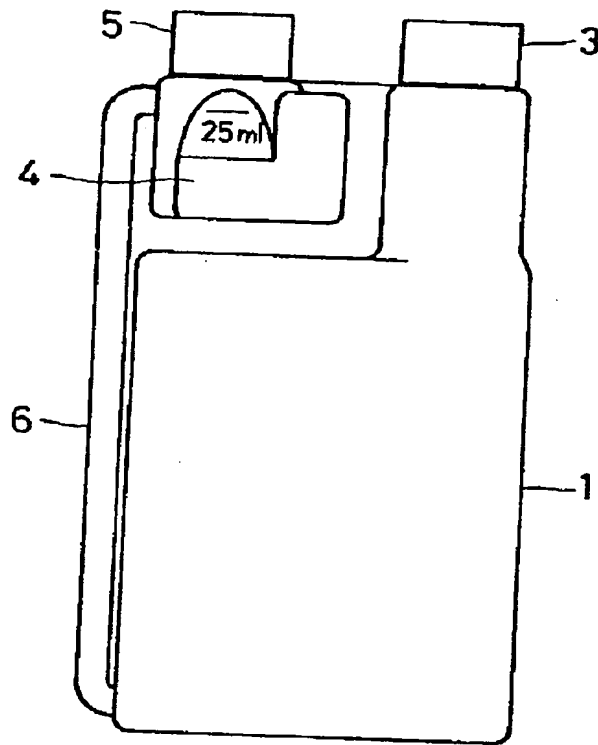
代理人 弁理士 浅賀 一 夫



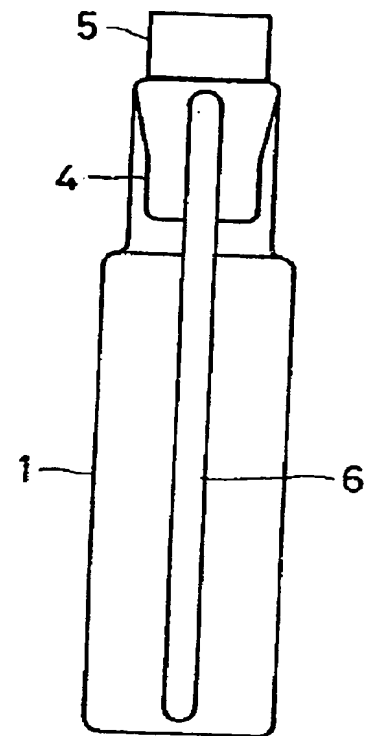
同 弁理士 浅賀 一 樹



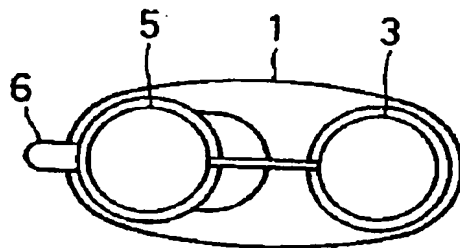
第 1 図



第 2 図

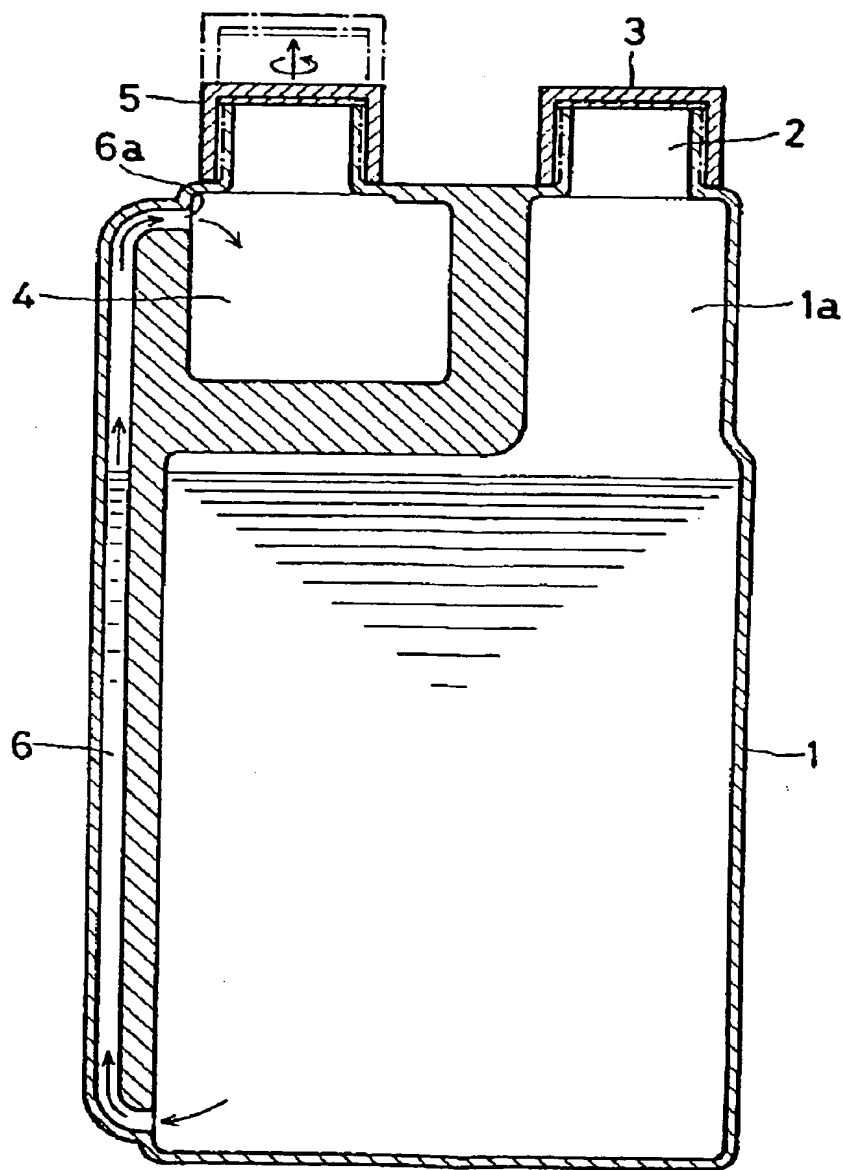


第 3 図



代理人 弁理士 浅賀 一夫
(ほか 1 名)

第 4 図



代理人 弁理士 浅賀 一夫
(ほか1名)

実開60-90172 704